

四日市の魅力を

特集/市長、新春に語る

輝かしい新春を迎えました。
本市が、未来に向けて持続的に発展していくために何をすべきか、新たなまちづくりの方向を展望し、今回は「四日市の魅力を創造し、発信する」というテーマで、市長が熱い思いを語りました。

動画もご覧
になれます

『ちゃんねるよっかいち』で1月10日まで放送された「市長 新春に語る2016」を市のホームページからもご覧になれます。トップページ右側『ちゃんねるよっかいち』(*)からご覧ください。

ちんねる
よっかいち

※このロゴが目印です→



聞き手 市民リポーター
中西 葉子さん

みんなが誇りを持てるまち

中西 市長、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお祈りします。

市長 明けましておめでとうございます。

今年も、元気はつらつの中西さんを見習って、精一杯全力で頑張ります。

中西 今回は「四日市の魅力を創造し、発信する」というテーマですが、どんな狙いがあるんですか。

市長 本市には、まちづくりの方向を示す最上位の計画として総合計画というものがありますが、この中で、「みんなが誇りを持てるまち 四日市」という都市像を掲げています。

この都市像を実現していくためには、本市の地域資源を生かしながら、「四日市といえばコレ!」というオンリーワン、ナンバーワンのシンボリックな魅力を生み出して、さらには、その魅力を市内外に広く発信していくことが必要です。

そうした取り組みこそが、市民の誇りを育て、ひいては、いわゆる「地方創生」にもつながっていくんです。

今回のテーマは、そんな深い意味を持っています。

ワンポイント
情報①



四日市市・地方創生総合戦略(まち・ひと・しごと創生総合戦略)

産業活性化によって地域経済の振興を図りつつ[基本目標1]、少子化や高齢化への対応を行い[基本目標2・3]、それらを含む本市の魅力の創造や発信により、交流人口を増加させ[基本目標4]、さらに定住人口の増加につながる取り組みを実行していきます。27年度末の策定に向けて検討を進めています。

創造し、発信する



しすいあん
茶室「泗翠庵」にて

語り手 田中 俊行市長

中西 今、「地方創生」という言葉が出ましたが、四日市市の「地方創生」について、もう少し詳しくお聞かせください。

市長 現在、四日市版の地方創生総合戦略(四日市市



まち・ひと・しごと創生総合戦略)を検討中なんです。これは、本市が人口減少・少子高齢化という大きな課題を乗り越えて、交流人口や定住人口を維持・拡大しながら、未来に向けて持続的に発展を続けていくための、いわば政策的な処方箋なんです。

その最大のポイントは、今四日市に住んでいる市民の方々にずっと永住していただくだけでなく、さらに市外からの来訪者や移住者を増やすためにどうするかということです。

市長 全国屈指の産業集積を生かして、雇用を拡大したり、安心できる子育てや老後の環境を整備したりすることはもちろん必要ですが、四日市の代名詞になるような、シンボリックな魅力を創りあげていくこともまた、不可欠だと思っています。

さらに、その魅力を全国に強力に発信することによって都市イメージを高め、「四日市はこんな魅力的なまちですよ。こんな住みやすいまちですよ」ということを効果的にアピールすることも重要です。

そのため、現在、「(仮称)四日市市の観光とシティプロモーションを推進する条例」の制定を進めています。特色ある魅力の創造と情報発信力こそが、四日市の「地方創生」を成功させるための、大きな鍵を握ると言っても過言ではありません。

基本目標 1

産業都市として日本のものづくりをリードし、さらなる発展を築く

基本目標 4

四日市市の魅力を磨き、交流人口を増やす

基本目標 2

子育て環境を整備し、地域の多様な能力を生かす

基本目標 3

地域で支えあい、安心して住み続けられるまちをつくる

ワンポイント情報 ②

(仮称)四日市市の観光とシティプロモーションを推進する条例

この条例は、市民の皆さんに四日市の魅力をよく知ってもらい、郷土に対する愛着や誇りを高めていただくとともに、その魅力を全国に効果的に発信することによって、都市イメージを向上させ、交流・定住人口を増やすことを目指すものです。27年度末の制定に向けて検討を進めています。

四日市の魅力 四日市の魅力って何でしょうか。まず、東に伊勢湾、西に鈴鹿山脈を望む豊かな自然に恵まれています。また、奈良時代の役所跡と見られ、日本書紀にも記述のある久留倍官衙遺跡くるとべかんのが残るなど、長い歴史があります。市内には東海道が通り、古くから人や物が集まる要衝地となってきました。



経済と環境の両立 (公害対策のモデル都市)

中西 四日市にはさまざまな魅力がありますが、産業のまちとしてよく知られていますよね。

市長 そうですね。全国屈指の産業都市であることは自他ともに認めるところですが、現在は、石油化学コンビナート以外にも、世界最先端、世界最大級の半導体工場や自動車・電機・機械・食品など、実にさまざまな産業が四日市に集積しています。

日本のものづくりをリードするまちとして、経済の活力は四日市の大きな魅力だと思います。

また一方で、四日市公害の歴史や教訓を生かして、産業の発展と環境保全を両立させてきたまちづくりも、本市の特色と言えますね。

官民一体で環境改善に取り組み、今では、公害対策のモデル都市と評価されています。

最近では、コンビナート夜景が人気のスポットとなり、



「日本夜景遺産」に認定された四日市港ポートビルからの夜景

さらに昨年、四日市港ポートビルからの夜景が「日本夜景遺産」に認定されました。これからも大勢の人に訪れてもらいたい場所の一つですね。

四日市あすなろう鉄道

中西 市長、昨年の4月にスタートした四日市あすなろう鉄道も魅力の一つですね。

市長 廃線の危機を乗り越えて存続が決まった内部・八王子線は、四日市あすなろう鉄道として再出発しました。市民の移動手段としてかけがえのない公共交通であると同時に、全国で3カ所しかないナローゲージの路線として、観光の要素を持った地域資源でもあると考えています。

皆さんも、「あすなろう鉄道」の末永い存続のために、「あす乗ろう」「きょう乗ろう」という気持ちで応援してください。



四日市あすなろう鉄道(左は昨年9月に導入された新車両)

さらに、その時々で育まれてきた伝統文化や地場産業が継承され、近年における全国屈指の多様な産業集積も大きな魅力です。

最近では、美しい工場夜景や全国規模のユニークな文化事業、『そらんぼ四日市』などが新しい魅力となっています。



そらんぼ四日市

中西 私も、改めて四日市の特色と魅力を再確認できた気がします。

ところで市長、リニューアルした博物館とプラネタリウム、そして、博物館の中に新たに整備された四日市公害と環境未来館、この3つの施設の総称が決まったんですね。

市長 そうなんです。この3つの施設を合わせて、全体を『そらんぼ四日市』と呼ぶことに決めました。昨年3月にオープンして以来、市内のみならず、市外・県外・海外からも大勢の人にお越しただいて、おかげさまで10月には来館者が5万人に達しました。

今後も、四日市の歴史や文化、産業と環境、また宇宙や科学に関する総合的な情報を発信する四日市の新たなシンボルとして、多くの人に学び、考え、楽しんでいただけるような施設となるよう努力したいと思っています。

中心市街地の活性化

中西 この「そらんぼ四日市」のある中心市街地の活性化も大きな課題ですね。

市長 そうですね。最近では、近鉄四日市駅東においても、相次ぐ高層マンションの建設や企業本社ビルの立地、また、市の補助制度を活用するスーパーサンシ前の再開発やふれあいモールのリニューアルなど、官民合わせた新たな活性化の動きが出てきています。

今年は、中心市街地の活性化に向けて、その起爆剤となり得る新しいプロジェクトを企画・立案したいと考えています。現在、学識経験者や民間開発の実務経験者の意見も聴きながら、文化施設も視野に入れた検討を進めているところです。

ワンポイント
情報 ③

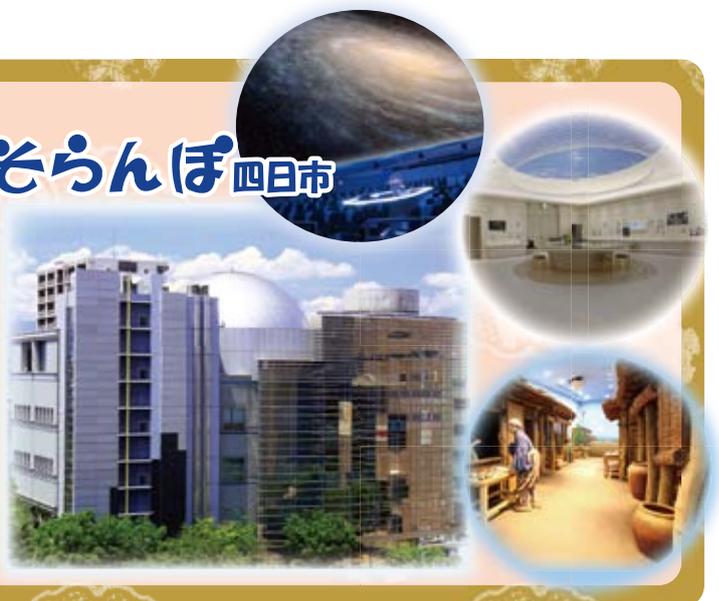


そらんぼ四日市

3つの施設を、お互いに相乗効果が発揮できる一体的な施設として分かりやすく認知していただけるよう、全体を象徴する総称を付けました。青空を取り戻した四日市の環境、博物館常設展の「時空街道」、プラネタリウムの「宇宙(そら)」という共通のイメージ“そら”と、3つの施設を散歩するように巡って、学んでいただくことをイメージした“さんぼ”を組み合わせました。

ぜひ、皆さんも「そらんぼ四日市」にお越しください。

そらんぼ四日市





文化力で都市イメージを向上

中西 最近は、文化の面でも新たな取り組みが出てきていますね。

市長 そうですね。「全国ファミリー音楽コンクールinよっかいち」は、四日市の文化力を全国に発信し、四日市の都市イメージを大きく向上させるという目的を持ってスタートした目玉事業ですが、おかげさまで今年5周年を迎えることとなります。

回を重ねるたびに知名度も高まり、北は北海道から南は鹿児島県まで、全国各地から多数の応募をいただけるようになりました。

出場者の音楽レベルも高く、しかも家族ならではの温かい絆が感じられる演奏によって、広い文化会館の第1ホール全体が大きな感動に包まれています。これからも、音楽をはじめ、芸術・文化を愛するまちとして、全国にアピールしていきたいと思っています。

魅力ある教育のまち

中西 住みやすいまちの魅力として、教育も重要だと思っています。そのあたりはいかがでしょうか。

市長 はい、その通りですね。実は、法改正で市長の権限が強化されたのを受けて、新たに、本市の教育の方向性を示す「四日市市教育大綱」を策定しました。

この大綱に基づいて、社会人になってからの問題解決能力の基礎となる学力を向上させること、そして、豊かな人間性を育むこと、この2点に重点的に取り組んでいきたいと考えています。

「魅力ある教育のまち」と評価されるよう、特色ある学力向上アクションプランも作成して、効果的な教育施策を実行しながら、空調や電子教材などの整備も進め、子どもたちを取り巻く教育環境の充実にも努めていきます。



第4回本選出場者の皆さんと市長



四日市市教育大綱

ふるさと四日市に愛着と誇りを持つ「心豊かな“よっかいち人”」を育むことを目指し、次の5つの理念を掲げています。この理念を踏まえ、教育施策の一層の充実につなげます。

- ① 社会人になっても通用する問題解決能力の養成
- ② 豊かな人間性と健やかな体の育成
- ③ 夢や志の実現に向け、自ら学び続ける意欲・態度の涵養
- ④ 家庭、地域、学校・行政が連携・協働した教育の実現
- ⑤ 都市の特長を生かした四日市ならではの教育の推進



市民文化の新たな拠点を整備

市長 今年は、旧三浜小学校を、文化会館に続く市民文化の新たな拠点となるよう整備していきます。市民の皆さんの芸術文化活動の練習や発表の場として、また、生涯学習の場などにも活用していく予定です。

さらに今年は、市民ニーズの高い、新しい図書館構想についても、しっかり検討し、方向付けをしたいと思っています。

スポーツも四日市の魅力

市長 加えて、5年後の三重国体開催に向けて、中央緑地体育館・サッカー場・野球場・テニスコートなど、ハイレベルなスポーツ施設を整備して、スポーツ面での四日市の魅力にしていきたいと考えています。

グローバルな視点で情報発信

市長 情報発信については、市の特産品や魅力をPRするために、首都圏や大都市圏でのイベントを精力的に行っています。昨年は、イタリアで開催されたミラノ万博でも、私自身が世界中の人たちに向けてプレゼンテーションを行いました。

中西 いろいろな所で四日市がPRされているんですね。

市長 これからの時代は、地方自治体としても、グローバルな視点を持った情報発信、シティプロモーションが非常に重要になってきます。



今年は、5月に三重県でサミットが開催されますので、このチャンスを生かして、世界の人々を「オール四日市」でおもてなししながら、四日市の魅力を最大限にアピールしたいと考えています。

中西 そうですね。四日市の魅力を世界の人に知ってほしいですね。

それでは、最後になりますが市長、今年2016年の抱負を教えてください。

市長 本市が、魅力と風格を備えた都市として、さらに飛躍できるよう、その土台作りの年にしたいと思います。今年は申年ですから、孫悟空のように、大胆に、果敢にチャレンジしようと決意しています。

中西 市長、本日はありがとうございました。

市長 ありがとうございました。2016年も全力で頑張ります。

ワンポイント
情報⑤



市民文化の新たな拠点の整備 (10月末完成予定)

音楽や舞踊、演劇などの練習や発表、また絵画などの創作や展示の場として利用できます。

主な整備内容

- 1階 リハーサル室、創作スペース、キッズスペース、交流スペース、図書室
 - 2階 練習室、リハーサル室、会議室など
 - 3階 練習室、会議室、展示室、指定避難所用備蓄倉庫
- 体育館は多目的ホールとして利用。陶芸窯建屋を新設



旧三浜小学校